

枚方寝屋川消防組合の沿革

旧枚方、寝屋川の消防

江戸時代

この時代の火事は、もっぱら手桶のリレーで消火に当たった。宝暦年間（1751～1761）に初めて手動ポンプの原形である竜吐水が現れ、各村にも備え付けられるようになり、寝屋川市内では、萱島の会所跡などにその頃のものが残っていた。

明治時代

明治の初年、各村に初めて自治的な消防組が生まれ、小頭、纏持ち、はしご持ち、とび持ち、竜吐水係などの役割に従って活動するいわゆる私設消防ができ、所により役所のかかえ火消、役所付火消、町火消などもできた。

明治 22 年

4 月 1 日

町村制が実施された。現在の枚方市、寝屋川市域に属する町村名は次のとおりであり、旧村はその大字となった。

一枚方市域（旧村名）－

枚方町（三矢・岡・岡新町・枚方・泥町・伊加賀）

蹉跎村（出口・走谷・中振）

川越村（村野・田宮・山之上・茄子作）

山田村（甲斐田・片鉾・田口・中宮）

牧野村（禁野・磯島・渚・小倉・阪・宇山・養父・上島・下島）

招提村（招提）

樟葉村（船橋・樟葉）

津田村（津田・野・春日）

菅原村（長尾・藤阪）

氷室村（杉・尊延寺・穂谷）

一寝屋川市域（旧村名）－

九個荘村（池田・葛原・大利・神田・高柳・対馬江・黒原・仁和寺・点野）

友呂岐村（郡・三井・田井・木屋・平池・石津・太間）

豊野村（国松・秦・太秦・高宮・小路）

寝屋川村（木田・萱島流作新田・堀溝・河北）

水本村（寝屋・打上・燈油）

明治 27 年

2 月

消防規則が制定され、同 37、39 年の改正を経て、各村に消防組織ができるようになった。

明治 31 年

6月	九個荘村仁和寺に、地域で最初の新式腕用ポンプが置かれ、さらに同 35、36 年から各村に常備されていった。
明治 44 年	
6月	東高野街道付近に不良徒輩が出没し、水本村の 3 大字で消防 3 隊を編成のうえ、水火消防はもとより、付近住民の警備、保護に当たったことがあった。
大正 6 年	
各町村単位に消防組ができて、その頃から各大字にも腕用ポンプ 1 台ずつが備えつけられるようになった。 (当時の消防組の手当) ○消防手の演習手当…………… 弁当代 60 銭 ○出火出動手当…………… 昼 60 銭・夜 80 銭 ○出初式手当…………… 50 銭 ○消防手の引退慰労金…………… 1 円	
昭和元年	
枚方警察署管内に連合消防組が組織された。	
昭和 10 年	
2月11日	牧野村と招提村が合併し、殿山町となる。
昭和 12 年	
3月	九個荘村に、地域で初めてのポンプ自動車 1 台が、購入配置された。
昭和 13 年	
11月3日	枚方町に殿山町、山田村、樟葉村、川越村、サダ村が編入合併
昭和 14 年	
1月	戦争の進展とともに、警防団令が公布され、同年 4 月 1 日各町村に警防団が結成されて、各大字に班が置かれた。事後、消防とともに治安の警備にも一役を演じ、一年数回の防空訓練が行われた。また町内会や隣組で家庭防空組合も組織されて、警察や警防団の指導のもとに、バケツリレー、火たたき練習など幾回となく防空訓練が行われた。
昭和 15 年	
11月18日	津田村、菅原村、氷室村が合併し、津田町となる。
昭和 18 年	
2月1日	九個荘村、町制施行「九個荘町」となる。
4月1日	九個荘町、豊野村、友呂岐村、寝屋川村が合併し、寝屋川町となる。
昭和 19 年	
8月25日	大阪府警察部直轄枚方消防特別出張所（所長は、枚方警察署長が兼任）が枚方

	<p>町三矢に開設。消防曹長2人が赴任し、枚方、寝屋川、交野、津田の4ヶ町の消防事務を枚方警察署の付属事務として開始する。</p> <p>警防団より特別消防補助員として80人を選抜し、消防ポンプ自動車は、枚方警防団に3台友呂岐警防団詰所に2台を配置し、官設消防が発足した。</p>
昭和20年	
6月29日	大阪府より消防職員26人を配置し、枚方消防中隊と呼称友呂岐警防団詰所（寝屋川町郡1015番地）を寝屋川消防分遣所に改称し、職員を配備
7月10日	枚方消防中隊の事務所を枚方町三矢36番地、淀川左岸水防組合内に移転
昭和21年	
3月10日	<p>津田町津田1684番地津田町役場の一部に津田消防分遣所を開設</p> <p>大阪府告示第130号により、大阪府枚方消防署に昇格</p> <p>初代署長に稲田 実 就任</p> <p>寝屋川消防分遣所を寝屋川消防出張所に昇格</p> <p>勅令の一部改正により、警防団が解散</p> <p>枚方町禁野、大阪府財務局枚方製造所内に、臨時消防分遣所を開設</p> <p>勅令第185号をもって消防団令が公布され、各市町村に消防団が組織されるとともに、枚方消防署も自治体行政の一機関として改組されることになった。</p>
昭和22年	
8月1日	枚方町、市制施行「枚方市」となる。
12月20日	寝屋川町郡1038番地に寝屋川消防出張所を移転

自治体消防発足以後

昭和 23 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・消防組織法施行、自治体消防発足（3月7日） ・福井地震 死者 3,895 人（6月28日） ・消防法施行（7月24日） 	
2月5日	消防組織法の制定に伴い、枚方市、寝屋川町、交野町、津田町の1市3ヶ町をもって消防組合を結成する会議をもち、消防組合消防本部は枚方市岡 620 番地の3、枚方市役所内に、消防署は枚方市三矢 36 番地、淀川左岸水防組合事務所内に、出張所は寝屋川町郡 1038 番地に寝屋川消防出張所を、交野町倉治 1809 番地、交野町役場内に交野消防出張所を、津田町津田 168 番地に津田消防出張所を、それぞれ設置することを定めた。
3月7日	枚方市告示第 20 号、寝屋川町告示第 7 号、交野町告示第 6 号、津田町告示第 12 号をもって枚方市外 3 ヶ町消防組合が組織され（名称・枚方市外 3 ヶ町消防組合、初代消防長兼署長に稲田実就任、枚方消防署、職員 32 人）自治体消防発足
5月4日	枚方市外 3 ヶ町消防組合同約を制定
9月30日	消防職員条例定数 75 人、実員 35 人
昭和 24 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県法隆寺金堂壁画焼失（1月26日） 	
4月1日	交野町が消防組合を脱退 規約改正により名称を枚方市外 2 ヶ町消防組合に改称
4月25日	寝屋川消防出張所を香里消防出張所に改称し、寝屋川町大利 622 番地の 2 寝屋川町警察署内に寝屋川消防出張所を開設
9月1日	津田町が消防組合を脱退
9月16日	規約改正により名称を枚方寝屋川消防組合、枚方寝屋川消防署に改称
12月15日	寝屋川消防出張所を寝屋川町大利官有無番地に新築移転開設
昭和 25 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・消防記念日（3月7日）の制定 	
6月25日	枚方市招提平野 47 番地の 1 に阪消防出張所を開設
昭和 26 年	
5月3日	寝屋川町、市制施行「寝屋川市」となる。
昭和 29 年	
6月6日	枚方市中振 2189 番地に枚方寝屋川消防組合消防本部（消防署併設）を新築移転開設 枚方市三矢 36 番地の枚方消防署を枚方消防出張所に改組

	香里消防出張所を廃止
昭和 30 年	
・文化財防火デー（1月26日）の制定	
10月15日	枚方市に津田町が編入合併
昭和 31 年	
2月2日	消防本部を基地局、枚方消防出張所、寝屋川消防出張所及び指令車を移動局として、消防専用無線電話を設置
4月1日	消防職員条例定数 77 人、実員 40 人
7月10日	枚方市津田 1864 番地の 1 に津田消防分遣所を開設
昭和 32 年	
4月1日	消防職員条例定数 77 人、実員 47 人 津田消防分遣所を津田消防出張所に昇格
9月20日	119 火災専用電話を設置
12月10日	全署所に消防専用無線電話の設置を完了
昭和 34 年	
・危険物の規制に関する規則の制定（9月26日）	
・伊勢湾台風 死者 4,697 人（9月26日～27日）	
昭和 35 年	
・防災の日（9月1日）制定	
4月1日	消防職員条例定数 77 人、実員 56 人
昭和 36 年	
・消防法施行令の制定（3月25日）	
・消防法施行規則の制定（4月1日）	
・火災予防条例準則の制定（11月22日）	
4月25日	本署に救急車を配置のうえ、救急業務を開始
6月28日	寝屋川市に水本村が編入合併
7月8日	消防本部（署）の 2 階事務所を増築
9月16日	第 2 室戸台風によるガレージ等の倒壊によって、枚方消防出張所を一時閉鎖
昭和 37 年	
4月1日	消防職員条例定数 77 人、実員 61 人 枚方寝屋川消防組合火災予防条例を制定
9月20日	枚方消防出張所を新築、業務再開
昭和 38 年	
3月7日	自治体消防 15 周年記念式典を開催（消防本部）

4月1日	消防職員条例定数 77 人、実員 76 人
4月15日	寝屋川市駅前整備による立退きのため、寝屋川市高柳 143 の 1 番地に寝屋川消防出張所を新築移転し、寝屋川西消防出張所と改称のうえ開設
4月19日	本署並びに枚方消防出張所、寝屋川西消防出張所の主力機械に消防専用無線電話を設置
6月25日	寝屋川市木田 618 番地に寝屋川東消防出張所を開設
昭和 39 年	
・救急業務実施基準の制定（3月3日）	
4月1日	消防職員条例定数 90 人、実員 89 人
10月1日	消防本部の組織に関する規則制定により次長制を実施し、2課1室7係を設置
11月26日	消防本部（署）及び消防出張所に消防相談所を開設
昭和 40 年	
4月1日	消防職員条例定数 107 人、実員 105 人
6月22日	大阪府北ブロック（8市4ヶ町）消防相互応援協定を締結
10月1日	枚方市中宮 2831 番地の 1 に中宮消防出張所を開設
11月22日	全主力機械の消防専用無線電話の設置を完了
昭和 41 年	
9月1日	消防職員条例定数 137 人、実員 120 人
12月26日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○副次長、主幹、5課13係を設置</p> </div> 枚方寝屋川消防組合監査委員条例を制定
昭和 41 年	
・群馬県水上温泉菊富士ホテル火災 死者 30 人（3月11日）	
4月1日	消防職員条例定数 137 人、実員 134 人
10月2日	消防施設等5ヶ年整備事業計画を樹立
昭和 43 年	
・神戸市有馬温泉池之坊満月城火災 死者 30 人（11月2日）	
4月1日	消防職員条例定数 172 人、実員 160 人
8月1日	自治体消防発足 20 周年記念式典（寝屋川市成田不動明王院信徒会館）
12月12日	消防特別救助分隊（隊員 10 人）発足
昭和 44 年	
・福島県磐梯熱海温泉磐光ホテル火災 死者 30 人（2月5日）	
4月1日	消防職員条例定数 250 人、実員 195 人
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> </div>

	○総合企画室を設置
12月17日	寝屋川市打上719番地の6に明和消防出張所を開設
12月26日	消防本部に大阪府救急医療情報センターへの直通電話を設置
昭和46年	
1月18日	機構改革 ○1本部（2課）2署制を実施
	枚方市大垣内町2丁目10番22号に枚方寝屋川消防組合消防本部（枚方消防署併設）を開設
	寝屋川市池田2丁目11番73号に寝屋川消防署を開設
	旧消防本部、枚方寝屋川消防署を中振出張所に改組
4月1日	消防職員条例定数300人、実員253人
8月1日	初代消防長 稲田 実 退任退職、二代消防長 田中 幸次 就任
8月16日	枚方市津田3111番地の1（枚方市役所津田支所内）に枚方消防署津田出張所を新築移転開設
昭和47年	
・大阪市千日ビル火災 死者118人（5月13日）	
4月1日	消防職員条例定数300人、実員282人
昭和48年	
・熊本市大洋デパート火災 死者100人（11月29日）	
1月12日	消防に関する都市等級調査（昭和46年10月～昭和47年2月実施）により大阪府から枚方市4等級、寝屋川市3等級に決定
3月2日	消防組合並びに枚方市消防団、寝屋川市消防団は、消防庁長官より昭和47年度優良消防機関として、竿頭綬を受ける。
3月23日	枚方寝屋川消防組合規約の全部を改正
3月26日	枚方寝屋川消防組合公平委員会設置条例を制定
3月31日	消防本部通信指令室に消防救急（A型）一斉指令装置を設置
4月1日	消防職員条例定数330人、実員306人
昭和49年	
1月30日	寝屋川市秦669番地の1に寝屋川消防署特別出張所を開設
3月14日	消防無線電話の呼出名称「ひらかたしょうぼう」を「ひらしょう」に改正
4月1日	消防職員条例定数400人、実員339人
10月15日	予防査察隊（赤バイ）発足
昭和50年	
3月1日	枚方寝屋川消防組合5ヶ年総合計画を策定

4月1日	消防職員条例定数 400 人、実員 369 人 消防音楽隊発足
5月6日	枚方市楠葉並木 2 丁目 29 番 1 号（枚方市役所北部支所内）に枚方消防署楠葉出張所を開設
5月23日	寝屋川市三井南町 25 番 2 号に寝屋川消防署三井出張所を開設
11月19日	京都府綴喜郡八幡町と枚方市並びに枚方寝屋川消防組合が相互応援協定を締結
12月26日	枚方寝屋川消防組合議会運営委員会を設置
昭和 51 年	
4月1日	消防職員条例定数 450 人、実員 415 人
昭和 52 年	
4月1日	消防職員条例定数 465 人、実員 452 人
6月1日	枚方市上野 2 丁目 3 番 1 号に枚方消防署渚出張所を開設 寝屋川市東神田町 60 番 1 号に寝屋川消防署神田出張所を開設
12月21日	寝屋川市婦人消防クラブ結成
昭和 53 年	
2月1日	消防本部通信指令室に、防災情報検索装置を設置
3月1日	自治体消防発足 30 周年記念行事（チャリティーバザー）を枚方市で開催（岡東中央公園）
3月7日	自治体消防発足 30 周年記念行事（チャリティーバザー）を寝屋川市で開催（ダイエー香里店）
4月1日	消防職員条例定数 485 人、実員 482 人
4月26日	枚方市茄子作北町 7 番 22 号に枚方消防署川越出張所を開設
5月11日	京都府綴喜郡田辺町と枚方市並びに枚方寝屋川消防組合が相互応援協定を締結
8月29日	枚方市婦人消防クラブ結成 寝屋川市少年消防クラブ結成
昭和 54 年	
4月1日	消防職員条例定数 533 人、実員 505 人
6月1日	枚方市牧野本町 1 丁目 10 番 34 号に枚方消防署阪出張所を新築移転開設
7月2日	寝屋川市下木田町 16 番 17 号に寝屋川消防署東出張所を新築移転開設
12月16日	消防の歌発表並びに枚方寝屋川消防組合消防音楽隊発足 5 周年記念演奏会を開催（枚方市民会館）
昭和 55 年	
・栃木県川治プリンスホテル火災 死者 45 人（11 月 20 日）	
4月1日	消防職員条例定数 551 人、実員 539 人

昭和 56 年	
4 月 1 日	消防職員条例定数 581 人、実員 568 人
5 月 1 日	寝屋川市春日町 20 番 22 号に寝屋川消防署西出張所を新築移転開設
10 月 24 日	枚方市長尾元町 2 丁目 80 番 4 号に枚方消防署長尾出張所を開設
11 月 1 日	二代消防長 田中 幸次 退任退職、三代消防長 中谷 晃光 就任
11 月 28 日	枚方市少年消防クラブ結成
12 月 8 日	枚方市桜町 3 番 40 号に枚方消防署枚方出張所を新築移転開設
昭和 57 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルニュージャパン火災 死者 33 人（2 月 8 日） ・救急の日（9 月 9 日）、救急医療週間制定 	
4 月 1 日	消防職員条例定数 601 人、実員 586 人
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防本部に部長制（2 部 5 課 1 室）を実施し、組織の充実を図る</p> </div>
4 月 21 日	火災が多発し、市民に注意を呼びかけるため「火災非常事態」を宣言
昭和 58 年	
1 月 17 日	消防に関する都市等級調査（昭和 57 年 6 月～11 月実施）により大阪府から枚方寝屋川消防組合管内（枚方市、寝屋川市）3 等級に決定
2 月 1 日	枚方市宗谷 1 丁目 14 番 1 号に枚方消防署氷室出張所を開設
3 月 2 日	消防組合並びに枚方市消防団、寝屋川市消防団は、消防庁長官より、昭和 57 年度優良消防機関として、表彰旗を受ける。
4 月 1 日	消防職員条例定数 630 人、実員 611 人
5 月 6 日	枚方市婦人消防クラブ、寝屋川市婦人消防クラブ発足 5 周年記念式典を開催（枚方市民会館）
5 月 26 日	枚方寝屋川消防組合発足 35 周年記念式典を開催（枚方市農協会館）
昭和 59 年	
4 月 1 日	消防職員条例定数 656 人、実員 632 人
7 月 1 日	枚方寝屋川消防組合防火委員会を設立
10 月 20 日	枚方寝屋川消防組合消防音楽隊発足 10 周年記念演奏会を開催（寝屋川市民会館）
12 月 27 日	枚方寝屋川消防組合消防職員の定年等に関する条例を制定
昭和 60 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・日航機墜落 死者 520 人（8 月 12 日） 	

4月1日	消防職員条例定数 701 人、実員 645 人 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防組合に収入役の補助機関として、「会計室」を設置</p> </div>
昭和 61 年	
4月1日	消防職員条例定数 701 人、実員 683 人 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○1本部3署制を実施し、消防本部総務部に「電子計算室」を設置</p> </div> <p>枚方市津田北町2丁目23番3号に枚方東消防署を開設 枚方消防署津田出張所を廃止</p>
4月11日	国際消防救助隊発足
5月13日	三代消防長 中谷 晃光 退任退職、四代消防長 吉田 義一 就任
6月1日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防本部は2部（総務部・警防部）1室（指令室）の体制を実施し、組織の充実を図る</p> </div>
昭和 62 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都東村山市特別養護老人ホーム「松寿園」火災 死者 17 人（6月6日） ・119番の日（11月9日）制定 	
4月1日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防本部の「電子計算室」を総務部より分離し、2部（総務部・警防部）2室（指令室・電子計算室）の体制を実施し、組織の充実を図る</p> </div>
10月1日	枚方東消防署に訓練塔及び防火水槽兼水難訓練場が完成
10月3日	火災報告処理の電算化を実施
10月28日	四代消防長 吉田 義一 退任退職、五代消防長 宮崎 正也 就任
11月28日	寝屋川市婦人消防クラブ発足 10 周年記念式典を開催（寝屋川市立総合センター） 枚方市婦人消防クラブ発足 10 周年記念式典を開催（枚方市農協会館） 「大阪府東部林野火災特別地域」に指定（枚方市・寝屋川市）
昭和 63 年	
1月1日	予防業務電算システムの運用開始
3月5日	三訓制定 枚方寝屋川消防組合発足 40 周年記念式典を開催（消防本部）
9月1日	大阪府下広域消防相互応援協定締結
平成元年	
<ul style="list-style-type: none"> ・秋の火災予防運動（11月9日～15日）制定 	

10月1日	<p>機構改革</p> <p>○指令室に指令課を新設、署の分隊を隊制とし、組織の充実を図る</p>
平成2年	
<p>・危険物安全週間（6月第2週）制定</p> <p>・春の火災予防運動（3月1日～7日）制定</p>	
5月19日	枚方寝屋川消防組合消防音楽隊発足15周年記念演奏会を開催（枚方市民会館）
6月26日	緊急情報管理センター（枚方消防署中振出張所併設）運用開始
平成3年	
<p>・雲仙・普賢岳大規模噴火災害 死者43人（6月3日）</p>	
1月1日	五代消防長 宮崎 正也 退任退職、六代消防長 広田 茂 就任
4月1日	<p>規約改正、副管理者を2人制に変更</p> <p>消防職員条例定数701人、実員694人</p> <p>枚方消防署枚方出張所を伊加賀出張所に、寝屋川消防署特別出張所を秦出張所に、東出張所を南出張所にそれぞれ改称</p>
6月5日	緊急情報管理センターにて消防緊急情報システム（Ⅲ型）運用開始
10月1日	大阪府下広域消防相互応援協定再締結
平成4年	
9月29日	寝屋川市婦人消防クラブ発足15周年記念式典を開催（ウェディングパレス愛）
10月6日	枚方市婦人消防クラブ発足15周年記念式典を開催（枚方仙亭）
平成5年	
<p>・北海道南西沖地震 死者320人（7月12日）</p>	
3月6日	枚方寝屋川消防組合発足45周年記念式典を開催（消防本部）
4月1日	<p>消防職員条例定数772人、実員718人</p> <p>枚方及び寝屋川消防署本署へ高規格救急車を配備</p>
8月1日	救急救命士による高度救急業務を開始
10月1日	<p>週休二日制実施</p> <p>人事給与システムの運用開始</p>
	<p>機構改革</p> <p>○交替制勤務を2交替制から3交替制に移行</p> <p>○消防本部総務部に「企画課」、警防部に「救急救助課」を新設し、電子計算室を廃止し、2部1室7課の体制とする</p> <p>○消防署の消防課を「警備課」に改称</p> <p>○警備課に「統括司令」、「消防担当主幹」、「救急救助担当主幹」、出張所に「出張所長」を配置し、指揮活動体制及び人事管理、事務管理の</p>

	<p>充実を図る。</p> <p>各署所間における予防業務電算システムのオンライン化（各出張所で各種届出の受付開始）</p>
平成6年	
3月2日	枚方消防署渚出張所を、枚方市上野3丁目8番2号に新築移転開設
4月1日	消防職員条例定数772人、実員729人 東ブロック消防救急指導に関する協定締結
6月1日	寝屋川市婦人消防クラブを寝屋川市婦人防火クラブに改称
10月1日	オートホーン電話システム運用開始 枚方東消防署本署及び寝屋川消防署南出張所へ高規格救急自動車配備
12月17日	枚方寝屋川消防組合消防音楽隊発足20周年記念演奏会を開催（枚方市民会館）
平成7年	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災 死者6,434人（1月17日） ・ 東京都地下鉄サリン事件 死者12人（3月20日） ・ 防災とボランティアの日（1月17日）、防災とボランティア週間（1月15日～21日） 	
1月17日	阪神・淡路大震災の発生に伴う災害応援派遣（3月30日まで）
4月1日	消防職員条例定数772人、実員735人
6月30日	緊急消防援助隊発足
8月21日	地震災害消防計画の見直し及び震災対応マニュアルの策定
11月16日	APEC大阪会議開催に伴う消防警備（11月20日まで）
平成8年	
2月13日	枚方消防署渚出張所へ災害対応特殊救急自動車配備
4月1日	消防職員条例定数772人、実員753人
10月1日	寝屋川消防署明和出張所へ高規格救急自動車配備 消防職員委員会制度発足
平成9年	
1月14日	FMひらかたと緊急放送に関する協定の締結
4月1日	消防職員条例定数772人、実員758人
4月2日	寝屋川市大字打上295-7に寝屋川消防署明和出張所を新築移転開設
4月17日	<p>機構改革</p> <p>○消防本部に「予防部」を新設、予防部に危険物行政を一括処理する「危険物規制課」を新設するとともに、警防部予防課を移管、警防部警備課を「消防救助課」に救急救助課を「救急課」に改称</p>
8月20日	行政改革推進室を設置し、行政改革に取り組む。

9月1日	大阪府下広域消防相互応援協定の一部を改正する協定の締結
9月13日	「なみはや国体」夏期大会開催に伴う消防警備（9月16日まで）
10月1日	六代消防長 広田 茂 退任退職、七代消防長 長谷川 庫司 就任
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防組織の管理体制強化のため、消防次長職を設置</p> </div>
10月25日	「なみはや国体」秋期大会開催に伴う消防警備（10月30日まで）
11月2日	「ふれ愛びっく大阪」開催に伴う消防警備（11月3日まで）
11月4日	渚処理場高度処理水の災害時における防災利用に関する覚書の締結
11月10日	寝屋川消防署明和出張所へ梯子消防自動車配備
11月19日	寝屋川市婦人防火クラブ発足20周年記念式典を開催（寝屋川消防署）
11月20日	大阪府下自動車電話・携帯電話からの119番通報に関する申し合わせの締結
12月25日	大阪府下自動車電話・携帯電話からの119番通報受付運用開始
平成10年	
3月20日	枚方消防署中振出張所へ高規格救急自動車配備 枚方東消防署楠葉出張所へ高規格救急自動車配備
4月1日	消防職員条例定数772人、実員756人 大阪府防災行政無線設備の整備及び管理運営に関する協定の締結
4月3日	枚方寝屋川消防組合発足50周年記念式典を開催
4月22日	消防行政改革の推進に伴う「行政改革大綱」を策定
5月6日	寝屋川市地域防災相互通信用無線局運用協定の締結
8月5日	消防本部へ緊急消防援助隊指揮車（四輪駆動車）配備
平成11年	
4月1日	消防職員条例定数772人、実員748人 枚方寝屋川消防組合同規約の一部改正
7月22日	枚方寝屋川消防組合消防特別救助隊30周年記念式典を開催
11月11日	平成11年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練実施（中央・枚方・藤井寺各会場）
12月31日	コンピューター西暦2000年問題に伴う特別警戒実施（平成12年1月1日まで）
平成12年	
4月1日	消防職員条例定数772人、実員760人
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防本部に「行政改革推進室」、総務部に「情報公開準備室」、指令室に「情報管理課」を新設</p> </div>
	河南町消防本部発足に伴う大阪府下広域消防相互応援協定の再締結

9月5日	女性消防吏員1人採用
10月1日	中国上海市盧湾区消防関係者視察 指令室員、救急要請受信時の口頭指導実施 枚方東消防署氷室出張所へ高規格救急自動車配備
平成13年	
・東京都新宿歌舞伎町火災 死者44人（9月1日）	
4月1日	消防職員条例定数772人、実員755人 七代消防長 長谷川 庫司 退任退職、八代消防長 渡会 廣 就任 枚方東消防署北山出張所を枚方市北山1丁目67番15号に新設
10月1日	情報公開条例、個人情報保護条例、情報公開・個人情報保護審査会条例、行政 手続条例の制定 情報公開室、情報公開コーナー新設
12月25日	枚方東消防署北山出張所、寝屋川消防署神田出張所に救急隊増隊 不祥事防止対策・職場活性化検討委員会設置
平成14年	
4月1日	消防職員条例定数772人、実員753人 枚方寝屋川消防組合消防職員の再任用に関する条例の制定
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○消防本部の「行政改革推進室」を「行政管理部」に、総務部の「情報公開準備室」と指令室の「情報管理課」を統合し、総務部に「情報推進課」を新設</p> </div>
10月1日	消防情報システムの運用開始 消防職員条例定数772人、実員751人 救助工作車（震災対応）を枚方署に配備 女性消防吏員1人救急業務に配置（北山出張所救急隊）
平成15年	
4月1日	消防職員条例定数772人、実員742人
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○総務部の「情報推進課」を廃止し、事務を総務課と指令室に移管</p> </div>
10月1日	消防音楽隊活動休止 消防職員条例定数772人、実員739人 消防音楽隊員を解任
平成16年	
・新潟県中越地震 死者46人（10月23日）	

4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 720 人 八代消防長 渡会 廣 退任退職 九代消防長 明智 良平 就任 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">機構改革 ○「会計室」を廃止し、会計事務を総務課に移管</div>
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 711 人
10月12日	加除式例規集（内規編）を廃止し例規総合システム導入
10月21日	台風 23 号による洪水被害に伴う緊急消防援助隊を兵庫県豊岡市に派遣（10 月 22 日まで車両 4 台、人員 16 人）
11月11日	消防音楽隊員を新たに選任し活動を再開
平成 17 年	
・ JR 福知山線脱線事故 死者 107 人（4 月 25 日）	
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 714 人 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">機構改革 ○「予防部」を廃止し、「警防部」に統合 ○「警防部警防対策課」と「消防救助課」を統合し、「警防課」とする</div>
4月25日	JR 福知山線脱線事故に伴う緊急消防援助隊を兵庫県尼崎市に派遣（4 月 28 日まで車両 8 台、人員 26 人）
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 707 人 女性消防吏員 2 人警防業務に配置（枚方東署女性消防吏員仮眠室設置）
12月2日	消防職員条例定数 772 人、実員 702 人 九代消防長 明智 良平 退任退職 十代消防長 榎本 志郎 就任
平成 18 年	
・ 長崎県大村市グループホーム火災 死者 7 人（1 月 8 日）	
3月31日	消防音楽隊廃止
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 704 人 枚方東消防署氷室出張所の消防隊が救急業務を兼務する体制とする。 財務会計システムの運用を開始
9月5日	平成 18 年防災功労者内閣総理大臣表彰（JR 福知山線脱線事故の活動）
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 700 人 枚方消防署川越出張所に救急隊増隊
平成 19 年	
・ 兵庫県宝塚市カラオケボックス火災 死者 3 人（1 月 20 日）	
・ 新潟県中越沖地震 死者 15 人（7 月 16 日）	
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 686 人

<p>10月1日</p>	<p>十代消防長 榎本 志郎 退任退職 十一代消防長 中口 武 就任</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <p>○「総務課」と「企画財政課」を統合し、「総務管理課」とする</p> </div> <p>消防職員条例定数 772 人、実員 678 人</p> <p>PA 連携開始</p> <p>枚方寝屋川消防本部・枚方消防署合同庁舎耐震補強工事着手・完了</p>
<p>平成 20 年</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治体消防制度 60 周年記念式典（3月7日） ・大阪市浪速区個室ビデオ店火災 死者 15 人（10月1日） 	
<p>4月1日</p>	<p>消防職員条例定数 772 人、実員 667 人</p> <p>十一代消防長 中口 武 退任退職 十二代消防長 永田 登 就任</p>
<p>10月1日</p>	<p>消防職員条例定数 772 人、実員 657 人</p> <p>署所の統廃合により、枚方消防署伊加賀出張所を消防本部伊加賀分室とする。</p> <p>寝屋川消防署庁舎耐震補強工事着手・完了</p>
<p>平成 21 年</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県渋川市老人ホーム火災 死者 10 人（3月19日） ・大阪市此花区パチンコ店火災 死者 4 人（7月5日） ・東京都杉並区雑居ビル火災 死者 4 人（11月22日） 	
<p>4月1日</p>	<p>消防職員条例定数 772 人、実員 663 人</p> <p>十二代消防長 永田 登 退任退職 十三代消防長 仙田 恵造 就任</p> <p>枚方消防署本署に高度救助隊を発足</p>
<p>10月1日</p>	<p>消防職員条例定数 772 人、実員 665 人</p>
<p>平成 22 年</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市グループホーム火災 死者 7 人（3月13日） 	
<p>1月20日</p>	<p>枚方東消防署本署に小型動力ポンプ付水槽車（10t）を暫定配備</p>
<p>3月20日</p>	<p>第二京阪道路全線開通</p>
<p>4月1日</p>	<p>消防職員条例定数 772 人、実員 672 人</p>
<p>10月1日</p>	<p>消防職員条例定数 772 人、実員 667 人</p>
<p>平成 23 年</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災 死者 19,475 人（3月11日） 	
<p>2月28日</p>	<p>寝屋川消防署明和出張所に小型動力ポンプ付水槽車（10t）を配備</p>
<p>3月11日</p>	<p>東日本大震災に伴う緊急消防援助隊を岩手県大槌町に派遣（3月20日まで車両 7 台、人員 28 人）</p>
<p>3月25日</p>	<p>寝屋川消防署本署に梯子車（15m級）を配備</p>

4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 661 人
10月1日	十三代消防長 仙田 恵造 退任退職 十四代消防長 岡本 治康 就任 消防職員条例定数 772 人、実員 662 人
平成 24 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県福山市ホテル火災 死者 7 人（5 月 13 日） ・ 九州北部豪雨 死者 30 人（7 月） 	
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 661 人
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消防本部に予防部を新設 ○予防部に「予防課」改め「予防指導課」を、「保安対策準備課」改め「保安対策課」を設置 ○大阪府からの権限移譲に伴い、保安 3 法業務を開始 ○地域防災向上センターを課に準じて予防部に設置 </div>
	寝屋川消防署秦出張所を秦出張所救急ステーションとして救急隊配備、及び庁舎改築工事着手・完了
8月14日	1 日積算雨量 150.5 ミリを記録、死者 1 人、浸水被害約 10,600 棟
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 656 人
平成 25 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎県長崎市グループホーム火災 死者 5 人（2 月 8 日） ・ 京都府福知山市花火大会火災 死者 3 人（8 月 15 日） ・ 福岡市博多区整形外科火災 死者 10 人（10 月 11 日） 	
1月7日	交野市消防本部と消防情報システムの共同整備に係る協定書の調印
3月25日	後方支援車を秦出張所救急ステーションへ配備
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 660 人
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中振・渚・楠葉・北山・明和・三井・神田各出張所に管理司令 21 人を配置 </div>
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 655 人
平成 26 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県安佐南区等における土砂災害 死者 74 人（8 月 20 日） ・ 御嶽山噴火 死者 57 人（9 月 27 日） 	
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 643 人
	十四代消防長 岡本 治康 退任退職 十五代消防長 藤中 明広 就任
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>機構改革</p> </div>

10月1日	<p>○中宮・川越・阪・長尾・氷室・西・南各出張所に管理司令 21 人を配置</p> <p>枚方東消防署長尾出張所及び寝屋川消防署西出張所に救急車を新たに配備（救急隊の兼務運用開始）</p> <p>消防職員条例定数 772 人、実員 650 人</p>
平成 27 年	
・川崎市簡易宿泊所火災 死者 10 人（5月 17 日）	
4月1日	<p>消防職員定数条例 772 人、実員 645 人</p> <p>機構改革</p> <p>○情報管理室及び情報管理室指令課を情報指令課へ再編</p> <p>○消防本部警防課に指揮支援・調査隊を創設。調査業務に加え、各署指揮隊の業務を補完する指揮支援業務を開始</p> <p>○枚方・枚方東・寝屋川各消防署に管理司令 9 人を配置</p> <p>枚方消防署に支援車Ⅱ型を、寝屋川消防署に遠距離大量送排水車を配備</p>
6月17日	交野市と消防通信指令事務の委託に関する協議書の調印
7月1日	枚方市新町 1 丁目に新消防本部庁舎仮使用開始
	情報指令課及び指揮支援・調査隊が先行して新消防本部庁舎にて業務開始
7月6日	枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センターの共同運用開始
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 654 人
平成 28 年	
・平成 28 年熊本地震 死者 202 人（4月 14 日、16 日）	
・新潟県糸魚川市大火（12月 22 日）	
2月8日	新消防本部庁舎本使用開始
2月13日	新消防本部開庁式
4月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 639 人
	違反対象物に係る公表制度運用開始
4月16日	熊本地震に伴う緊急消防援助隊を熊本県阿蘇郡南阿蘇村に派遣（4月 23 日まで車両 7 台、人員 50 人）
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 661 人
12月16日	枚方東消防署北山出張所に遠距離大量送水車を配備
平成 29 年	
・埼玉県三芳町倉庫火災（2月 16 日）	
・平成 29 年 7 月九州北部豪雨 死者 42 人（7月 5 日）	
・さいたま市特殊浴場火災 死者 4 人（12月 17 日）	
3月15日	枚方消防署中宮出張所を、枚方市池之宮 3 丁目 8 番 2 号に新築開設

4月1日	建替え工事着手・完了 消防職員条例定数 772 人、実員 648 人
4月3日	ドクターカー事業運用開始
10月1日	消防職員条例定数 772 人、実員 668 人
平成 30 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治体消防制度 70 周年記念式典（3月7日） ・札幌市下宿火災 死者 11 人（3月20日） ・大阪府北部地震 死者 5 人（6月18日） ・平成 30 年 7 月豪雨 死者 220 人（6月28日～） 	
4月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 641 人
6月18日	大阪府北部を震源とする地震発生に伴う非常警備体制発令 震災警備運用 2・震災 3 号招集発令
7月6日	平成 30 年 7 月豪雨に伴う緊急消防援助隊を広島県に派遣（8月1日まで車両 14 台、人員 58 人）
10月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 649 人
平成 31 年／令和元年	
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県熊本地方地震（1月3日） ・北海道胆振地方中東部地震（2月21日） ・京都市伏見区アニメーションスタジオ火災 死者 36 人（7月18日） ・沖縄県那覇市首里城跡火災（10月31日） 	
4月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 635 人 十五代消防長 藤中 明広 退任退職 十六代消防長 東口 敏巳 就任
6月24日	G20 大阪サミット消防特別警戒（関西国際空港現地警戒本部及び南エリア進駐警戒拠点は6月30日まで 26 人、巡回警戒班（予防班）は6月26日から29日まで 8 人）
9月22日	ラグビーワールドカップ 2019 花園消防特別警戒（5人）
10月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 643 人
令和 2 年	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行（1月から） ・令和 2 年 7 月豪雨 死者 77 人（7月3日から7月31日） 	
2月27日	時差出勤の導入
3月6日	陽性者搬送用の専用救急車運用開始
4月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 635 人 十六代消防長 東口 敏巳 退任退職 十七代消防長 小野 多弘 就任

10月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 640 人
令和3年 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月伊豆山土砂災害 死者 26 人（7月3日） ・大阪市此花区における倉庫火災（11月29日） ・大阪市北新地ビル火災 死者 25 人（12月17日） 	
4月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 630 人
10月1日	消防職員条例定数 699 人、実員 629 人
12月16日	ブロック内応援要請に伴う災害派遣（守口市浄水場閉じ込め救出活動事案 12月18日まで車両5台、人員29人派遣）